



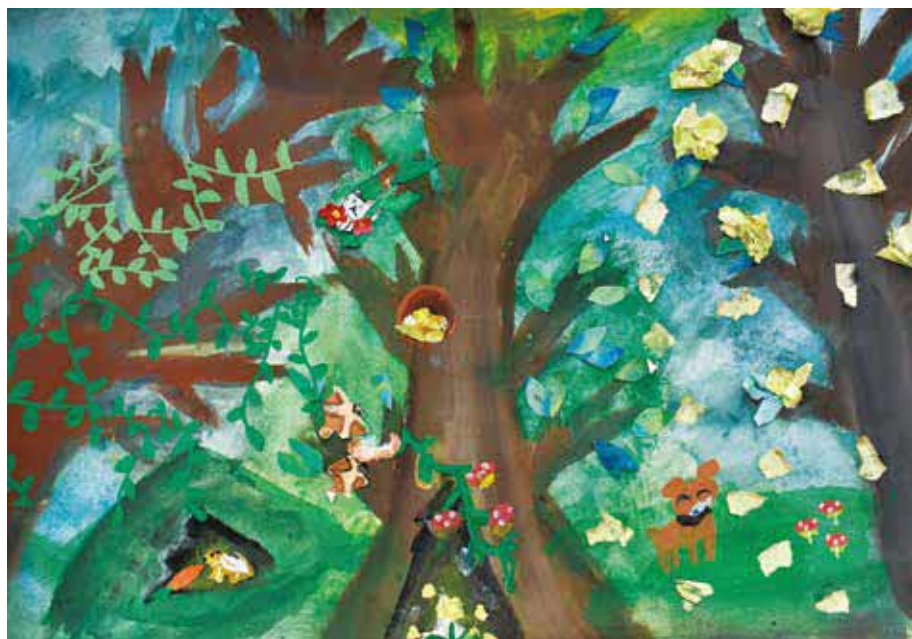
さくら



題字 足立区長 近藤 やい
足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会
会長 市村 智
編集 広報委員会
発行日 2025年3月1日
〒120-8510
足立区中央本町1-17-1
TEL 03-3880-5870



「よろこびの森」 千寿常東小 4年 あいかわ 相川 このか 樹花 作

目次

地区会長 こぼれ話	1
合同地区協議会 視察研修 報告	2・3
特集 身近に迫る大水害 そのとき、あなたはどのように？	
赤い羽根 共同募金	4・5
各種表彰受賞者名簿	6
第93回全国民生委員 児童委員大会	7
短歌・絵画	7
地域を訪ねて	8
中川小フェスティバル	8
オレンジリボン啓発活動	8

地区会長 こぼれ話



傾聴の精神を糧として

神明地区 会長 金子 正邦

民生・児童委員を拝命してから、早いもので15年になろうとしています。新任教育研修での「傾聴の精神」（耳を傾けて心で相手の話を聞く）を糧として、活動してまいりました。

毎年11月には、子どもたちへの虐待防止を目的に「オレンジリボンキャンペーン」が実施されます。昨年も区内10駅で実施。私も街行く人々に、チラシ・ティッシュを配布しました。「こんにちは」の明るいあいさつと、上からの目線ではなく、相手と同じ目線をとることを心がけ、多くの人々にお配りしました。

これからも「挨拶はされる前から、自分から」をモットーに活動していこうと思います。



人が人を癒す

竹の塚地区 会長 小島 千恵子

足立区の北の玄関口、竹の塚は旧くて新しい街。駅も高架になり、人の流れがよくなりました。地区の活動でも風通しのよさと話しやすさを心がけています。ふだんの会話の中には愚痴を含めてたっぷりと、大事なヒントや貴重な情報が詰まっています。人が人を癒します。

先輩たちから「待つ・聴く・伝える」のノウハウを、ケースに応じて、時代に合わせ、地域に馴染ませていく。周りと連絡をとりながら、少しでも血の通った温かさで。まずは自分自身をゆったりたっぷりチャージして、それぞれ街に出かけます。世界中にいいことがたくさんありますように。笑顔が魅力の仲間たちです。

合同地区協議会視察研修 報告

それぞれの視点を 生かした視察・体験

令和6年10月～11月にかけて、
充実した視察研修が行われました。
各合同の方々にその様子を報告し
ていただきました。



第一合同 八天堂きさらづ (木更津市)

パン作りを通して障がい者の就労支援を行っている「八天堂きさらづ」を見学しました。

車中では、社会福祉協議会の結城地域福祉部長から社協・包括O×クイズで、配食サービスやちょこっとサービスの利用について認識を深め、千住福祉課の佐久間課長から千住や木更津の地域特性の説明がありました。

パン工場では現在12人の知的障がいのある方が、包装用の箱の組み立てや工場内の清掃を担当しているそうです。とても入念な作業で助かっているとのことでした。また、パン作りも体験し生地をこねて動物の顔を作ったり、丸いパンにクリームを注入したり、笑顔が絶えない時間でした。帰路には、はちみつ工房と道の駅で買い物も楽しみました。



(3地区 会長 佐藤昇 記)

第二合同 本所防災館 (墨田区)

防災館では、防災シアターで映画「災害が起こった時にどうする」を観た後、4つの災害をツアー方式で体験しました。都市型水害のコーナーでは、水圧でドアが開けられなくなること、地震コーナーでは大きな揺れを体感しました。煙コーナーでは火事の時に逃げる方法を学び、暴風雨コーナーでは強い雨と風を体験しました。改めて災害の恐ろしさを身をもって感じたことで、今後どのように行動すればよいか、考えるきっかけとなりました。

その後、カップヌードルミュージアムでは、災害時に保存食となるマイカップヌードル作りをしました。

貴重な体験をし、委員同士の懇親も深めることができた有意義な研修となりました。



(18地区 会長 坂井孝治 記)

第三合同 東京臨海「そなエリア東京」 (江東区)

「そなエリア東京」は首都直下地震など大地震発生後、支援体制が整うまでの72時間の生存力を高めるため、リアルな災害再現市街地等、被害想定体験型の学習施設です。大災害時は医療施設・ヘリポート・港湾・物流と陸海空が連携し、首都救援の最前線になるということです。

多発する地震災害のなか、昨年1月の能登半島沖地震ではいまだにインフラが完全に戻っていません。民生・児童委員は、災害時要支援者名簿を預かっていますが、まずは自分と家族を守り、余裕があれば当地域の状況を確認することを改めて胸に刻みました。帰路は車中で荒川が氾濫した際の水害について勉強して、貴重な体験研修でした。



(11地区 会長 名取恵 記)

第四合同 国立ハンセン病資料館 国立療養所多磨全生園（東村山市）

ハンセン病は「らい菌」が皮膚や神経を侵す感染症です。1946年にプロミンという特効薬治療が始まり、治る病気になったにも関わらず、日本では1996年に「らい予防法」が廃止されるまで「強制隔離」が行われました。実に50年…その後も感染者や親族までが差別・偏見にさらされ続けました。

国立ハンセン病資料館でのハンセン病の歴史、暮らしの道具、感染者の証言展示を前に皆さんは、「知らなかった…」と眩き、あるいは無言でじっと見入っていました。施設内には納骨堂があり、亡くなくても故郷に帰れない方々の遺骨が納められています。多磨全生園は、現在、回復された方が生活を送る施設となっています。



（7地区 稲塚由美子 記）

第五合同 防災科学技術研究所 （つくば市）

令和6年は元日より災害に見舞われ、防災に対する意識が高まりました。そのため防災リテラシーを深めようということで、茨城県つくば市の防災科学技術研究所を見学しました。

バス内の研修では、飯塚西部福祉課長から穴あきクイズ形式での出題があり、社会福祉協議会の高橋福祉事業部長からは、災害ボランティアの募集・育成・派遣等の活動について学びました。

防災科学技術研究所では、大型の実験施設がメンテナンス中だったため、映像で最先端施設の防災研究を見ることができました。また、地震ザブトン体験では、過去に起こった地震の地震動を体感しました。視察研修を通して、防災リテラシーが深まったと感じました。



（鹿浜地区 吉田靖雄 記）

第六合同 「こころみ学園と富弘美術館」 （足利市・みどり市）

今回の研修は、まずバスの中で社会福祉協議会の中村福祉事業部長補佐の地域防災研修があり、災害に対する心構えについて、熱く詳しく語っていただきました。

訪問先のこころみ学園（ココ・ファーム・ワイナリー）は、ぶどう栽培を主とした農作業を通して知的障がいのある園生の健全な生活を支援している施設です。開墾当時のご苦労を知り、感動いたしました。またワインの試飲も体験できました。

懇親会の後、足を延ばして富弘美術館を見学。口に筆をくわえて描き出された優しい文字と絵。星野富弘さんの作品からは生きる勇気を与えられました。

参加された皆さんとの懇親を深め、見聞を広げることができた実りの多い一日でした。



（15地区 会長 高波国男 記）

第七合同 ケアフィットファーム （甲州市）

令和6年11月29日、ぶどうで有名な山梨県甲州市の「ケアフィットファーム」を見学しました。

この施設は、農業と福祉の連携をかがけ、障がい者雇用事業としてワイナリーを運営しています。職員の方から化学肥料を使用せず、環境に配慮したワイン作りをしていることや、あらゆる人が共に学び働きながら活躍できる場の実現を目指している、というお話を伺いました。

午後は、都留市の「リニア見学センター」を見学。幸運なことにリニアの走行試験の実施日でしたので、実際に時速500キロの速さを目撃、走行する際の振動音を体感でき貴重な経験となりました。

朝早くから長時間の視察研修となり、参加して下さった皆様、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。



（花畑地区 藤田万里子 記）



巨大台風、線状降水帯…身近に迫る大水害

そのとき、あなたはど​​うする？



巨大台風や線状降水帯が毎年のように発生し、全国各地で甚大な災害が起きています。足立区も荒川が氾濫すると全域が浸水し、浸水深5 m以上になる地域もあり早急な対策が求められています。水害は地震とは違い、前もって発生が予測できます。民生・児童委員として、自分や家族、住民の命を守る取り組みを改めて調べてみました。

令和元年度台風第19号襲来時西新井橋から見た荒川

足立区では大水害が発生することが予測された場合、いち早く命を守る行動をとるため、「分散避難」を呼びかけています。

「分散避難」とは？

避難所以外の安全な場所（自宅・親戚・知人の家等）へ分散して避難することです。災害時、自宅がどのような状況になるのか事前に確認し、どのように行動するか決めておくことが大切です。

まずは

「在宅避難」(自宅にとどまる)

- 自宅が浸水・倒壊のリスクがない
- 戸建てでは浸水しない階に避難

次に

「緣故等避難」

- 浸水の恐れがない家族・親戚・知人の家やホテルなどへ避難する

最後に

「避難所へ避難」

(在宅避難、縁故等避難が難しい場合)

- 日頃から非常用持ち出し品を用意し、荒天になる前に避難所へ
- 1人2食分の食料、水、タオルなどを必ず持参する
- 原則として徒歩で避難する



いざというとき、あわてないために

水害への対応は予想される水害の規模や、地域の特性によって違ってきます。浸水が数週間に及ぶような大水害なら安全な場所への避難が最優先ですが、2,3日で水が引くような場合は、浸水リスクのない自宅にとどまることも選択肢です。

足立区ではハザードマップなどさまざまな災害情報を発信しています。まず、災害時に自宅がどんな状況になるのか常に確認して、身近な人と「いつ、

どこに、どのように」避難するかを相談しておいて
いただきたいと思います。

大きな災害では、行政だけでは対応しきれない問題が、あちこちで発生します。日ごろから問題意識をもって、住民のみなさんといっしょにどんな対策ができるのか考え、実践していきたいと考えています。

(足立区危機管理部 総合防災対策室
災害対策課 水害時避難担当
芝戸 拓矢係長)



こんな取り組み 始まっています

コミュニティタイムラインの策定

コミュニティタイムラインは、水害時の逃げ遅れや犠牲者をゼロにするため、災害が起きたとき地域で取るべき行動を定めた事前防災行動計画です。「いつ・誰が・何をするか」を町会、自治会役員などの地域住民が中心になって決めます。すでに荒川沿川や中川地域など浸水リスクが高い5地区で策定されています。



「まず早めの避難」を日常的に伝える

新田地区では町会・自治会役員や民生・児童委員、PTA 役員、足立区の担当の方などが集まり、地域のタイムラインを作りました。

その過程で心に残ったのは危険が迫ったら、まず自分が避難することです。私は民生・児童委員の地区会長として連絡拠点の役割もあるし、災害時はギリギリまで自宅に留まるつもりでいました。けれど「あなたが逃げ遅れたら、救助のため多くの人々を危険にさらすことになる」と言われハッとしました。

今は災害が起きたら率先して安全な場所に避難することを心に刻み、地域のみなさんにも日頃から早めの避難の大切さをお伝えしていくつもりです。

(第五合同 会長 茂出木直美 談)



「コミュニティ
タイムライン」
の詳細はここか
ら→



命を守るクイック退避建物

綾瀬警察署では2018年から、地域の高いビルやマンションのオーナーに、大水害が起きたとき屋上や廊下などの共用部分を地域住民の一時的な避難先として提供する要請を行っています。

考案した元綾瀬警察署長の林二郎さん（現東京都交通安全協会安全対策部部长）は、「2018年の西日本豪雨がきっかけ。多くの死傷者を出した岡山県真備町の地形が、四方を川に囲まれた綾瀬にそっくりだと気づいたためです」と話します。「住民が一時的に避難できる場所があれば、命は救えます。小高い山などがないこの地域では、高い建物が一時避難場所に最適と考えました」

当初の想定以上の協力があり、今では区内約200カ所がクイック退避建物として登録されています。

避難できる建物であることを示すステッカーも作成。この取り組みは警視庁の要請として、現在も続いています。

(東栗原地区自主研修会から 3地区 杉本和子 記)

クイック退避
建物がわかる
ステッカー



講演する林・元綾瀬警察署長
(令和6年12月13日 足立区役所
会議室で)

令和6年 「赤い羽根 共同募金」 総額959,218円が集まりました

民生・児童委員10数人が西新井駅東口に立ち、募金活動をしました。旗を掲げて、駅に向かう人や降りて来る人に募金を呼びかけました。

募金の方法も多様化し、選択肢も増えています。それでも立ち止まり、募金をしてくださった方々の善意に感謝しつつ募金箱に封をしました。

(8地区 吉澤はる江 記)



令和6年10月1日西新井駅で

「お詫びと訂正」

さくら66号特集「高齢者を支える 孤立ゼロプロジェクトに注目！」にて記載内容に誤りがございました。

つきましては、下記のとおり訂正してお詫び申し上げます。4ページ左上（1行目～2行目）

【誤】足立区の65歳以上の高齢者の割合は約25%。東京都内でトップであること

【正】足立区の65歳以上の高齢者人口による高齢化率は約24%。東京23区内でトップであること（令和6年4月1日現在）。

出典：令和6年度 あだちの介護保険 《令和5年度実績》

各種表彰受賞者名簿

(敬称略)

◆厚生労働大臣表彰 (基準日 = 令和6年11月26日現在)

社会福祉功劳 市村 智 (令和6年11月26日において、社会福祉の推進に寄与し、またはその業務に精励した者で他の模範になる方)
定 時 表 彰 中村 英子 (令和6年11月30日以前1年間に於いて辞職した75歳以上で在職おおむね15年以上の方)

◆全国社会福祉協議会会長表彰 (基準日 = 令和6年4月1日現在 在職15年以上の現職の委員で功績顕著な方)

茂出木直美

◆東京都知事表彰 (基準日 = 令和6年10月1日現在)

規則表彰 (在職20年以上)

小林 尚子 小張 悦子 下岡 博子

特別功労賞 (在職17年以上)

海野 正子 早川 元康

一般功労賞 (在職10年以上)

上野千代子	豊住いずみ	中村 康子	瀬口 淑子	久保田富士江	数山あかね	山口真理子
河本 孝美	成瀬しおり	小野由美子	有澤ふみ子	上野 剛	大川 正江	菊池 孝子
金杉 栄一	藤田とみ子	新藤 功江	上谷地ヒデ子	山野 一郎	石山 玲子	井口 敬子
佐々木恵子	大塚 幸子	伊藤 雅和	佐々木政子	長岡智恵子	由羅 久江	大関由紀江
榊 孝子	佐藤まり子	加茂 光恭	山本 健嗣	田口 治雄	小泉 榮子	稲葉 義彦
清水 直子	清水 康弘	南 純代	小泉 博	阿出川孝行	木村 克博	西澤てる子
阿出川恵子	岩崎みち子	嶋村喜代美	高橋 純子	石丸亜佐子	荒井 建一	市川 欣也
長谷川京子	清水 良江	本郷美智子	永瀬由美子	小林 一行	長島 正恭	藤田万里子
米田栄美子	赤岩 明美					



◆全国民生委員児童委員連合会会長表彰 (基準日 = 令和5年11月30日現在)

(1) 優良民生委員児童委員協議会表彰

足立区民生委員・児童委員協議会 (単位民児協)

(2) 永年勤続民生委員・児童委員表彰 (在職10年以上)

上野千代子	豊住いずみ	中村 康子	瀬口 淑子	久保田富士江	数山あかね	山口真理子
成瀬しおり	小野由美子	上野 剛	大川 正江	菊池 孝子	金杉 栄一	藤田とみ子
新藤 功江	上谷地ヒデ子	山野 一郎	井口 敬子	佐々木恵子	大塚 幸子	佐々木政子
由羅 久江	大関由紀江	榊 孝子	加茂 光恭	山本 健嗣	田口 治雄	稲葉 義彦
清水 直子	清水 康弘	南 純代	小泉 博	阿出川孝行	木村 克博	西澤てる子
阿出川恵子	岩崎みち子	嶋村喜代美	高橋 純子	石丸亜佐子	荒井 建一	市川 欣也
長谷川京子	清水 良江	永瀬由美子	小林 一行	長島 正恭	藤田万里子	米田栄美子
赤岩 明美						



◆足立区表彰 (基準日 = 令和6年10月1日現在)

社会福祉功劳 (在職10年以上)

上野千代子	豊住いずみ	中村 康子	瀬口 淑子	久保田富士江	数山あかね	山口真理子
河本 孝美	成瀬しおり	小野由美子	有澤ふみ子	上野 剛	大川 正江	菊池 孝子
金杉 栄一	藤田とみ子	新藤 功江	上谷地ヒデ子	山野 一郎	石山 玲子	井口 敬子
佐々木恵子	大塚 幸子	伊藤 雅和	佐々木政子	長岡智恵子	由羅 久江	大関由紀江
榊 孝子	佐藤まり子	加茂 光恭	山本 健嗣	田口 治雄	小泉 榮子	稲葉 義彦
清水 直子	清水 康弘	南 純代	小泉 博	阿出川孝行	木村 克博	西澤てる子
阿出川恵子	岩崎みち子	嶋村喜代美	高橋 純子	石丸亜佐子	荒井 建一	市川 欣也
長谷川京子	清水 良江	本郷美智子	永瀬由美子	小林 一行	長島 正恭	藤田万里子
米田栄美子	赤岩 明美					

表彰された皆様、おめでとうございます！



第93回 全国民生委員児童委員大会



「宮崎大会」に参加して



石川会長（左）と
東京都の代表会長のみなさん

令和6年11月19日～21日、市村智協議会会長の代行として第93回全国民生委員児童委員大会「宮崎大会」に参加しました。あらゆるものに神の力が宿るという宮崎県

は、九州最強のパワースポットとされています。すれ違うバスも見学した鶴戸神社、青島神社もすべてを全国の民生・児童委員が埋め尽くしました。

特別講義では「向こう側の笑顔とこちら側の笑顔～まずは私が幸せでいよう～」をテーマにKIGURUMI.BIZ(株)代表取締役の加納ひろみさんが着ぐるみ制作を通して、世界に羽ばたいている様子を魅力たっぷりにお話してくださいました。

翌日のシンポジウムでは「なりて確保」と「制度・活動のあるべき姿」について発表がありました。私が注目したのは富山県高岡市の「企業の理解促進と協力獲得に向けて」です。民生委員の就業先事業所あてに、民生委員・児童委員活動への支援や協力をお願いする依頼文を発行するというものです。市長と本人の連名で、民生・児童委員の委嘱後1週間というスピードで発送されました。これは、活動のしやすさに一定の効果があつたと報告がありました。仕事との両立支援は、これからの対策として大変参考になりました。

また、足立区は「優良民生委員児童委員協議会」(72か所)に選ばれ、シーガイアの会場一番前に誇らしく立たせていただきました。3日間、東京都の代表会長方と過ごし、楽しみながら多くを学ばせていただきました。



天岩戸神楽保存会
(第七合同 会長 石川祥江 記)

中学生短歌コーナー

足立区立第六中学校

虫の音に ふと気がついた 月を見ながら そんな時期かと 二年 坂本 さかもと ちはる	日が暮れて 見上げた空に 今年もいるかな 餅つくうさぎ 二年 川渕 かわぶち ゆりん	ワイシャツの 袖につかまる 空一面の 夕焼け雲よ 二年 大池 おおいけ 悠 ゆう	帰り道 紫の空 白の月 雲はつかめず 音鳴る枯葉 二年 田中 たなか 唯 ゆい
---	---	---	---

小学生絵画コーナー



墨絵「野菜をかいたよ」

千寿常東小 4年 とうま 藤間 利乃 作



「山手線のたまご」

千寿第八小 2年 いしばし 石橋 学武 作



地

シリーズ

(活動報告)

域を訪ねて

看護学院の授業で 民生・児童委員の活動を紹介

令和6年10月10日、鹿浜地区内にある博慈会高等看護学院で37人の学生に、2年目の秋季授業の協力をさせていただきました。鹿浜地区民生・児童委員のうち、14人にご協力いただきました。

まず、足立区役所民生係の廣瀬さんより、民生・児童委員の役割について講義。地域住民の相談相手・見守り役・専門機関へのつなぎ役といった、基本的活動内容や法律上の位置づけなど、私たちにも勉強になるお話をいただきました。特に区内の民生・児童委員の状況を数字で説明されたのは、私たちにも勉強になりました。

続いて小林委員より「地域で孤立する高齢者」と題し事例発表がありました。

その事例は引きこもりがちな男性に、老人クラブの行事に参加するように勧めたところ、「参加して、やっと地

域の一員になれたような気がする」と喜んでくれたというものです。

このように民生・児童委員の活動は地区の方々を繋ぐ、または手助けをすることだと考えます。

学生のみなさんはこの事例に感銘を受けたようで、これからの仕事に結び付く話として真剣に耳を傾けていました。微力ですが、今後とも学生さんの力になればと思い学校を後にしました。

(鹿浜地区 会長 鈴木健治 記)



学生のみなさんと共に

民生・児童委員の活動をアピール 中川小フェスティバル2024で

佐野地区独自の活動として12年前より地区の小学校のPTA主催のお祭りで、民生・児童委員のPR活動をしています。プラレールやけん玉、塗り絵、ゲーム、バルーンアート等を子どもたちと楽しみながら保護者のみなさんにパンフレットを配布しています。



令和6年10月19日、中川小で

ミンジーが登場すると、子どもたちは手を振ったり、抱きついたり…。この子たちの誰かが小学校時代のミンジーの思い出をきっかけに、将来、民生・児童委員になればいいと密かな野望を胸に、これからもこの活動をがんばっていきます。

(佐野地区 中村知代 記)

オレンジリボン啓発活動

足立区内の10駅で、オレンジリボン啓発活動の一環としてマスクを配布しました。オレンジリボンには子どもの虐待防止を支援する意図がありますが、道行く人は不思議そうな顔で、なかなか受け取



令和6年11月16日、北千住駅で

ってくれません。しかし、これは社会全体で取り組むべき最重要課題のひとつです。

私たち民生・児童委員もさらに力を入れていかなければならないと感じました。

(11地区 吉井記代 記)

計
報

第一合同3地区

平瀬美保(ヒラセ ミホ)委員 逝去
ここに謹んで哀悼の意を表します

広報委員会

委員長

鶴岡 一郎

副委員長

吉田 祐一

編集長

杉本 和子

副編集長・レイアウト

吉澤 はる江

編集委員

山崎 雅明

吉井 記代

宇田川 毅

木村 克博

小宮 忍

向山 義一

林 哲司

眞野 賢枝

校正長

富澤 久男

副校正長・レイアウト

富田 英紀

副校正長

神野 松枝

校正委員

芦田 利恵

倉持 弘

藤本 悦子

下岡 博幸

西野 正美

赤岩 明美

編集委員・カメラ

鈴木 政博

校正委員・書記

中村 知代

永塚 徳雄

校正委員・会計

宮澤 カヨ子

編集後記

本号は、昨年実施された「合同地区視察研修」の報告が掲載されています。各合同で様々な場所に行き、見聞を広めるとともに、委員同士の交流も行われ、有意義な時間を過ごされたようです。今後の民生・児童委員活動に寄与されるものと期待いたします。

今年の秋には任期の3年目にあたり、「全員食事会」が予定されています。今期で退任される委員さんとも同じ時間を過ごせるのは最後です。今から楽しみです。

(15地区 向山義一 記)